

## ACT Japan 2021 年度・年次ミーティング プログラム(第2報)

### 大会長

首藤 祐介 (広島国際大学)

### 大会運営委員会

伊井俊貴(メンタルコンパス株式会社)

井上和哉(早稲田大学人間科学学術院)

久留宮由貴江(シカゴスクール オブプロフェッショナルサイコロジー)

今野高志 (東海中央病院)

瀬口篤史(西知多こころのクリニック)

松下加奈子 (川越病院)

柳澤博紀(犬山病院)

吉本学 (COCO(BPD 支援団体))

### テーマ： 「文脈的行動科学の種を現場に植える、育てる、広げる」

文脈的行動科学 (Contextual Behavioral Science: 以下 CBS) は機能的文脈主義を哲学とし、行動分析学と関係フレーム理論を基礎として持ち、アクセプタンス&コミットメント・セラピーを中心とした臨床行動分析による実践の源となるパラダイムです。そして、このパラダイムは動物行動から人の持つ言語についての基礎、応用、そしてそれを橋渡しする研究を含み、教育、臨床、組織マネジメント、予防、文化、社会問題等と多岐にわたる分野の実践が行われ、まるで大海のような深さと広さを持ち合わせています。近年の CBS 研究の急速な拡大もあり、その全貌を知ることはますます難しいものとなっています。

そこで、今回のミーティングでは「現場(実践)」を一つのキーワードにこの大海に臨み、現場で CBS の実践を始めること、高度な実践ができるようになること、そしてその実践をさまざまな領域で行うことについて、広く議論したいと考えています。

**日程：**2022年3月19日(土)、3月20日(日)

**場所：**オンライン実施(主には Zoom ウェビナーを利用します)

**参加条件：**ACT Japan の会員、あるいは心理関連領域の専門職および大学生・大学院生、および本会活動に関心のある方

参加費：一般会員	¥0
非会員	¥3,000
大学生・大学院生 (会員・非会員問わず)	¥0
リモート懇親会費	+ ¥0

参加申込の方法：年次ミーティングへの参加は

すべて事前の申し込みが必要です。ACT Japan 会員も申込が必要となりますのでお気をつけください。

下記リンクより ~~2022年3月12日(土)~~3月17日(木) までにお申し込みください。

<https://actjapan2021.peatix.com/>

発表者へのお知らせ：ポスター発表については別添「2021年度 ACT Japan 年次ミーティング・ポスター発表申し込み要領」をご参照ください。ポスター発表の申し込み期限は ~~2022年3月4日(金)~~3月8日(火) となります。

内容：

1日目 2022年3月19日(土)

12:30～13:00 受付・主旨説明

13:00～14:30 <ミニワークショップ> 講師：今野高志、瀬口篤史、柳澤博紀

【どのように問題の核心に迫るのかークライエントとの会話と行動測定から】

14:30～15:00 休憩

15:00～18:00 <ワークショップ> 講師：井上和哉、茂本由紀、嶋 大樹、津田菜摘

【ACTの実践を関係フレーム理論の観点からまなぶ】

18:30～19:00 ポスターセッション・懇親会の主旨説明

19:00～ リモート懇親会

2日目 2022年3月20日(日)

10:00～10:30 総会

10:40～12:10 <大会企画シンポジウム①> 座長：伊井俊貴

【ACTで組織を変える】

12:10～13:00 休憩

13:00～15:00 <大会企画シンポジウム②> 座長：吉本 学

【CBS（文脈的行動科学）をいかにして学び、現場で実践していくのか】

15:00～15:30 閉会

お問い合わせ：ACT Japan 年次ミーティング 2021 運営事務局

actjapan2021meeting(AT)gmail.com

※(AT)を@にしてから利用ください

## 各イベント内容の概略

### 【ミニワークショップ】

どのように問題の核心に迫るのかークライアントとの会話と行動測定から

司会 服部正嗣（西知多こころのクリニック）

講師 今野高志（東海中央病院）

瀬口篤史（西知多こころのクリニック）

柳澤博紀（犬山病院）

クライアントの問題が煩雑化していることが多い臨床現場では、主訴や診断に頼った介入では対応しきれないことも多い。本ワークショップでは、主訴や症状に流されることなく、問題の核心をどのように捉え介入を最適化していくのかを、セッション内の会話やセッション間の継続的な行動測定の観点から議論する予定です。

### 【ワークショップ】

ACT の実践を関係フレーム理論の観点からまなぶ

講師 井上和哉（早稲田大学）

茂本由紀（京都文教大学）

嶋 大樹（同志社大学）

津田菜摘（同志社大学）

本ワークショップでは、ACT の支援者向けに、セラピーを柔軟に効果的に進めるためのポイントを関係フレーム理論の観点から紹介します。内容は、ACT と関係フレーム理論の基本的な説明から、ロールプレイを交えた ACT の実践練習などを予定しています。書籍（メタファー：心理療法に「ことばの科学」を取り入れる）の内容もワークショップに含まれます。本ワークショップの主な対象者は、ACT の初心者（ACT の書籍をすでに読んでいる方）～中級者（ACT の実践をされている方）になります。ぜひご参加ください。

### 【大会企画シンポジウム①】

ACT で組織を変える

座長 伊井俊貴（メンタルコンパス株式会社）

シンポジスト 石井遼介（株式会社 ZENTech）

久留宮由貴江（シカゴスクールオブプロフェッショナルサイコロジー）

土屋政雄（株式会社アドバンテッジ リスク マネジメント）

昨年は「個人から組織そして社会へ」というテーマで Steven C Hayes 先生と Paul Atkins 先生を交え、Contextual Behavioral Science (CBS)、Evolutionary Science（進化科学）の文脈において ACT セラピストに求められる役割を議論しました。ACT セラピストが個人の文脈を扱うだけでなく組織や社会の文脈を扱うことが求められていること、組織や社会と

いう文脈では文化的な差異が影響するため日本ならではのアプローチが必要であり、うまくいった事例があれば Association for Contextual Behavioral Science (ACBS) 全体に向けて発信してほしい、など提案をいただきました。この提案を受け、本シンポジウムでは ACT で組織に関わっているシンポジストの方々に ACT で組織を変える取り組みについてお話しいただき、ACT セラピストが組織の文脈を扱う取り組みを共有したいと思います。

**募集:** ACT らしく相方向のディスカッションを心がけたいと思いますので、ACTJAPAN 会員の皆様で ACT をチームや組織に使っている事例などございましたら共有いただけると幸いです。内容に関しましては事前に (tshtk.ii@gmail.com) までいただいてもよろしいですし、当日お話しいただいても構いません。時間や進行の関係上、すべてのご質問、ご意見を取り上げることはできませんので予めご了承ください。

### 【大会企画シンポジウム②】

#### CBS (文脈的行動科学) をいかにして学び、現場で実践していくのか

企画	吉本学 (COCO)
話題提供	吉本学 (COCO) 瀬口篤史 (西知多こころのクリニック) 久留宮由貴江 (シカゴスクールオブプロフェッショナルサイコロジー)
指定討論	大月友 (早稲田大学人間科学学術院)

年次ミーティングのキーワードである CBS (文脈的行動科学) の実践について、『いかにして学び、現場で実践していくのか』を主題として、3つの観点から取り上げていきたいと考えています。

1つ目は、仲間同士で ACT (アクセプタンス&コミットメント・セラピー) を練習し学びあう枠組みとして Peer-led Group (ピアレッドグループ) を紹介したいと思います (登壇者: 吉本)。「本は読んだけどどう使っていいかわからない」「練習してみたいけど相手がいない」等、お困りの方も少なくないのではないのでしょうか。こういった問題の解決策として Peer-led Group は存在します。

2つ目は、アメリカで生まれた CBS が、日本国内でどのように実践されているかに触れていきます (登壇者: 瀬口篤史先生)。2016年から臨床行動分析研究会を企画・運営され、ACT においても行動測定を重視したアプローチを実践されている瀬口先生にお話ししていただきます。周囲を盛り立てつつ国内の CBS コミュニティの発展に尽力されてきた先生の経験から得るものは大きいのではないのでしょうか。

3つ目は、所謂エキスパートの方がどのように工夫して学び、実践されているのかを発表していただきます (登壇者: 久留宮由貴江先生)。ABA (応用行動分析) や RFT (関係フレーム理論) などに精通されているだけでなく、Prosocial や ACT Matrix の認定トレーナーでもある久留宮先生にお話ししていただきます。先生の幅広い知識や実践を、どのように育んできたのかを知ることで、私達が今後、どのような部分に着目して CBS の知識や実践力

を深めていけばよいのか参考になると思うのです。

最後に、指定討論には現 ACT Japan 理事長である大月先生をお迎えいたします（指定討論：大月 友先生）。3名の登壇者と共に、参加者の皆様とのディスカッションがより深まると確信しております。

本企画を通して、参加者の皆様に「僕も、私もやってみようかな」と思ってもらえたり、既実践されている方々に対しても、より深い実践をするきっかけになればこの上ない喜びです。